

おうち

第7号

2005.10

テーマ「習い事」

幼児にとっての習い事って何？



「キャンプのごはん」 すずき たくまちゃん(年中)

アンケートの結果 「習い事」

「ピアノレッスン 今昔」 栃木県幼児教育センター長 船橋 かず子

トピックス 子ども同士のトラブル・父親が子どもを叱っている時

子どもと読みたい一冊 「おへそのひみつ」

掲示板

一人一人を見つめて

お知らせ

アンケート結果

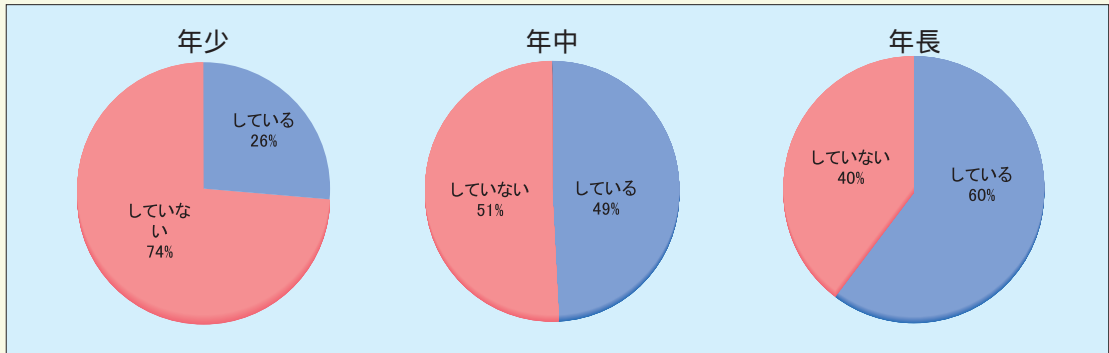


「習い事」

【回答数4,809件 年少(1,574) 年中(1,598) 年長(1,673)】

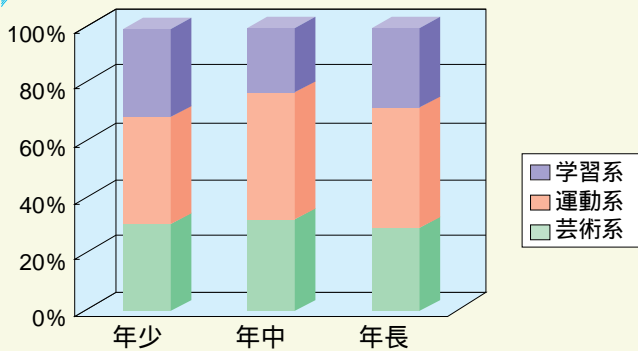
「習い事」って気になりますね。
何歳ぐらいから必要なの？ どんなことを？ 費用は？
今回のアンケートでは皆さんの「習い事」事情を伺いました。

1. 習い事をしていますか



年齢とともに、習い事をしている子どもが多くなっています。年中児ではほぼ半分の子どもが習い事をしていました。

2. 何を習っていますか？（複数回答）



30種類以上の習い事がありました。ここでは、ピアノなどの芸術系、スイミングなどの運動系、英語や文字の学習系の3つにまとめてみました。

習い事の数は一人的お子さんで2～3つという回答が多いようでしたが、中には7つという回答もありました。

3. 習い事 BEST3

芸術系

1. ピアノ（エレクトーン含）
2. バレエ
3. 書道（年長）
絵画（年少・年中）

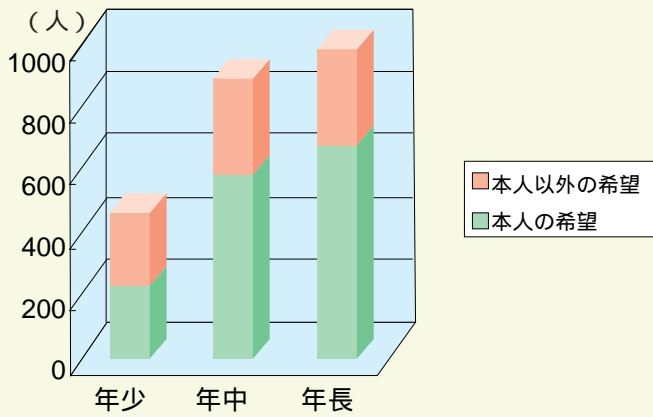
運動系

1. 水泳
2. 体操
3. サッカー

学習系

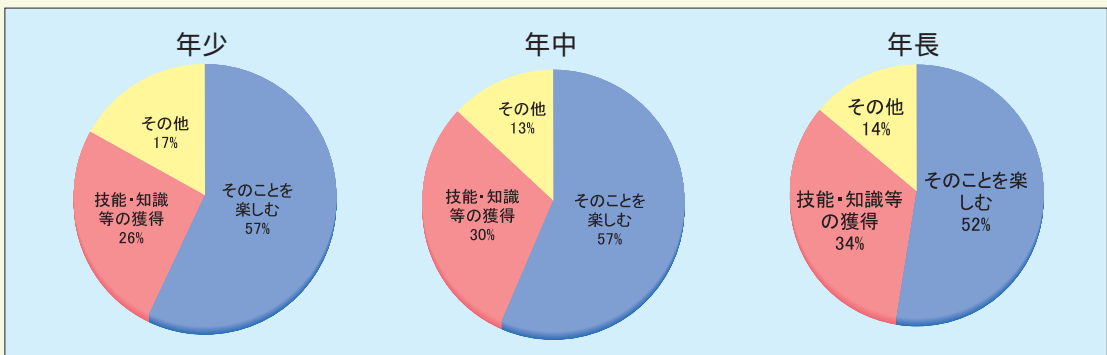
1. 英語
2. 文字・数
3. 複合的幼児教室

4. 始めた動機



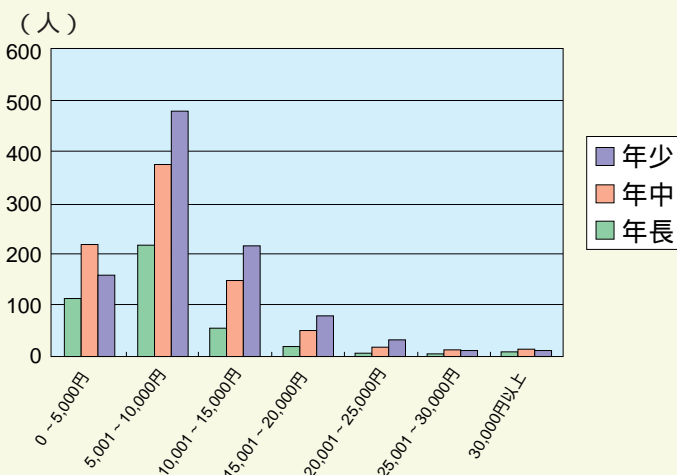
年中児・年長児では本人の希望で始めることが多いようです。
 幼児期は興味や関心の広がる時期です。
 習い事に限らず「やりたがり」の気持ちを大切にしましょう。

5. 習い事の目的



どの年齢でも「そのことを楽しむ」が一番多かったです。
 その他の目的では、体力づくり・人間関係・礼儀・がんばる気持ち・達成感を味わう・集団性を身につけるなどが挙げられていました。

6. 一ヶ月の費用



費用の問題はどのご家庭でも悩みの種では...

年長児の費用が高めなのは、複数の習い事をするお子さんが増えるからなのです。



習い事をしての感想

- ・本人が楽しくやっていて嬉しい。
- ・やればできることが本人に少し理解できたようだ。
- ・技能を習得して、自信につなげて欲しい。
- ・チームワークや話の聞き方が身についた。
- ・楽しみながら知識や体力をつけている。
- ・友達が増えた
- ・自立心がついた。
- ・いろいろな経験ができてよい。
- ・がんばって取り組んでいる姿はほほえましい。
- ・親子のふれあいが生まれた。
- ・いろいろな経験のきっかけ作りは親の役目。
- ・親子一緒に努力していけて嬉しい。
- ・本人も親も世界が広がった。



- ・毎日練習をしなくてはいけなく大変。
- ・宿題を家でやるのが大変。
- ・費用や送迎が大変。
- ・遊べる環境がないので習い事を始めた。
- ・基本的に費用は惜しまないが、経済的に限界がある。
- ・親の方に熱が入って怒ってしまい反省。
- ・いやなことがありやめた。
- ・夜遅くなるので、始めるのが早すぎたかと後悔している。
- ・身についたという実感がなく不安。
- ・始めてみたら思っていたものと違い、いやになっている。
- ・やめ時を見極めるのも大切。

習い事を通して子どもの成長を感じている一方、費用や送迎など保護者の負担感や子どもへの負担などが寄せられました。「親の希望で始めたら、泣きながら通い半年で止めた。親子ともにつらい思い出。」という声もありました。

習い事に対する自由意見

- 本人が楽しくできるならやらせてあげたい。幼児期は楽しむことが一番。
- 背伸びをして「勉強」をさせても、将来的に本当によいのか考えてしまう。
- 何が今の時期に大切なのかよく考えたい。
- 習い事より幼児期にしかできない遊びをたくさんさせたい。
- 上の子が遊ぶ時間がなく苦痛だったというので、下の子には自由な時間を与えたい。
- 習い事をたくさんしている子は疲れないのかな。
- もっとやらせてみたいが費用もかかるので無理。
- 周囲を見ていると何かやらせなければという気持ちになってしまう。
- 子どもの興味・関心があることが最も重要。
- 親がきっかけを作ってあげることも大切。
- 遊ぶ時間が減らないよう工夫している。
- 悩んだが、子どもと触れ合う時間を大切にすることにした。
- 親の見栄やエゴではさせたくない。押し付けになっていないか。
- 努力しないと結果は出ないことを経験して欲しい。
- かつて自分が習っていたものはあまり身につけていない。本人次第だとつくづく感じる。
- 友達が習い事に行ってしまうので、友達を求めて習い事に通わなくてはならない状況。
- やらせたいが本人のやる気がない。
- やりたいこと、やらせたいことのバランスが大切。
- 習い事の時期や費用、量など分からないことばかり。
- 本人が好んでやる分には良い。ただ、ほかの子と比べたり、精神的な負担になったりするようなことは避けるべき。
- 持続させるサポートが親の役目。
- 教室には喜んでいくが、家ではまったくやりたがらない。

「ピアノレッスン 今昔」



栃木県幼児教育センター長
船橋 かず子



お子さんの幸せを願い、習い事をさせている親は多いことと思います。豊かな時代になり以前よりもさまざまな習い事をしているお子さんもいます。幼いお子さんをお持ちのおうちの方は、習い事が必要なのか、また、どんな習い事をさせたらよいかと迷うところかと思えます。自分の経験を思い浮かべながら「幼児期の習い事」について考えてみたいと思います。

私は4歳の頃からピアノを習っていました。ずいぶん昔のことなので、よく習わせてくれたなと今になって思います。幸い自分に合っていた習い事だったようで、他の習い事は全くやらずに、ピアノだけずっと続けました。

幼い頃、週に1回のレッスンは楽しいばかりではありませんでした。毎日少しずつ練習をする約束だったのですが、練習は見た目ほど華やかなものではありませんでした。淡々とした練習は遊びたい盛りの子どもにはつらいこともあり、ついつい先生に見てもらおう前の日に、しかたなく猛練習をすることになるのです。それでも続けてこられたのは、曲が弾ける喜びもありましたが、家族の応援が大きかったと思います。

何となくやらされるピアノの練習から、弾くことが楽しく変わっていったのは中学生の頃でした。技能も多少備わったこともあったのですが、自分の思いを曲に現すことができると分かったときは、とてもうれしかったのを覚えています。それからが本当の練習だったような気がしています。

自分が親となって娘に習い事をさせた頃のことを思い出してみます。親も音楽が好きで、家庭内にも多少の音楽の環境があったためか、娘は、歌を聴いたりレコードを聴いたりすると、まねをして楽しそうに歌っていました。そこで、音楽教室をすすめてみることにしました。

音楽全体のことを楽しく教えてくれるところを選びました。何人かの友達と一緒に音楽遊びをする教室でした。付き添いでいく私も一緒に加わることもありました。幼児期の発達を考慮して、音楽を通したたくさんの遊びを取り入れていました。娘は子どもなりに楽しいようで、家に帰ってから、覚えた曲をよく家族に披露していました。

自分の習った頃の教え方とずいぶん違うなあと感じました。幼児期に合った教え方があるのだなと私も勉強になりました。また、幼いなりに自分を発揮することの楽しさや喜びを味わわせてあげることの大切さを知りました。

習い事というと、一つの基本的な教え方があり、ある面忠実に一つ一つ積み重ねていく部分もあるのだと思いますが、幼児期においては、お子さんの発達を十分考慮することで、「 するって楽しいな」とお子さんが感じとれることが大切なのだと思います。そして、教える先生はもちろんのこと、共に感じてほめる・励ますなど温かく見守ってあげる親や周りの人の存在が大きいのだと思います。幼児期の習い事は、ほんの入り口。でも大事な入り口ですね。

たとえばピアノを習うとき。

ピアノを弾く先生への憧れから、ピアノを習っているということに満足している子、先生や友達と一緒にのレッスンに楽しみを見出している子、上手になりたいと技術の習得をがんばる子、鍵盤を叩く音を楽しんでいる子……。同じ習い事でも、受け止め方はいろいろあり、子どもたちの心の中はとても豊かで自由に広がっています。

上達のみにとらわれず、子どもたちの感性を伸ばせるような『幼児の習い事』にしたいですね。

トピック TOPIC



Q 子ども同士のトラブルにどこまで関与したらよいか分からず、悩んでしまう時があります。

A 昔から「子どものけんかに親が出てきた」と言われて笑われることがあります。子どもの世界に大人が口を出すことで、子ども同士の育ちあう力（問題解決能力）を削いでしまうことへの警鐘です。でも、今の子ども社会は幼稚園や保育園生活が主であり、同年代の友達でのトラブルが多く、昔のガキ大将のような年上の子どもが仲裁や調停をしてくれることが無くなりました。必然的に大人が介入することが多くなってしまいます。介入するのが保育者であればその時の状況がある程度分っているので、大きな問題にはならないのですが、親がかかわってくると厄介な方向に進みがちです。子どもの言うことを信用するな、ということではないのですが、子どもの気持ちを受け止めるだけに留めて、問題解決は子ども自身に任せるように励まし、それでもだめな時は園の先生に相談するようにしてみてもいいでしょうか。子ども同士は気持ちの切り替えが出来るのですが、大人はずっとしこりが残ってしまいます。親同士が子どものことで仲が悪くなるようなことにならないようお願いしたいものです。

Q 父親が子どもを叱っている時、自分はどうしてもいいか解りません。

A 子どもにとって、両親から叱られるとしたら目の前が真っ暗になるかもしれませんね。質問のお母さんはそれが分かるのでどうしていいかと思ってしまうのだと思います。もちろん、だめなことはだめ、と教えずにはいけないのですが、家の中全部が一斉に自分に向かって叱り出したら子どもは絶望感しか持たなくなってしまいます。したがって、片方が叱っているとき、追い討ちをかけるのではなく、一呼吸おいてから、どうして叱られたのか、お父さんがどういう気持ちで叱ったのかを落ち着いた声で話して聞かせることが良いのではないのでしょうか。お父さんが叱り過ぎているようなときはある程度の助け舟も必要かも知れませんが、お父さんを批判するような言動は新たな紛争の火種になってしまいますので気をつけてください。日頃からそのようなときの双方の役割を話し合っておくことも大切かと思えます。

習い事

ア・ラ・カルト

アンケートの回答にはBest 3にあげられた習い事の他にもいろいろな習い事がありました。

芸術系

バイオリン、歌唱、音楽教室、日本舞踊、お囃子、華道

運動系

柔道、空手、剣道、合気道、テニス、ボクシング、エアロビクス、ジャズダンス、リトミック、ヒップホップ

学習系

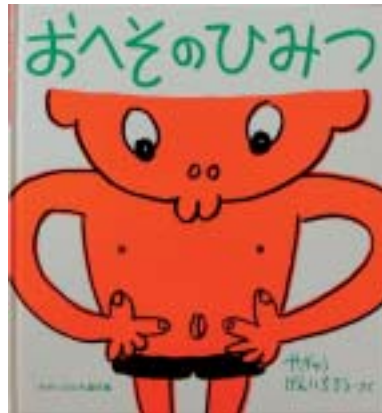
そろばん、パソコン、受験のための施設、サイエンス教室

その他

タレントスクール、ボーイ（ガール）スカウト

「おへそのひみつ」 やぎゅうげんいちろう 作

福音館書店



とても非科学的なかみなりさまとおへその関係から始まり、おへそのひみつをととても科学的に解明してくれる本です。それでもなお、わが子は雷がなるとおへそをかくしていますが...

掲示板

自由意見で寄せられた声です。

●おうちをもらい、子育ての情報が入るようになったと思います。幼稚園に入る前の子どものいる家庭にもこのような広報誌があればいいと思います。

おうちは幼稚園・保育所を通じて配布しているほかに、公民館や図書館にも少しですが置いていただいています。子育て情報はいろいろな形であふれていますが、じっくり読んでいる時間も取れないのが「子育て時代」ですよね。これからもご家庭に「子ども」に関する情報をお届けしたいと思っています。

●トピックスは参考になるし、楽しいです。

ありがとうございます。トピックスは幼児教育センターの幼児教育専門員が主に担当しています。幼稚園や保育所で大勢のお子さんの育ちを見てきた豊富な経験からお答えしています。取り上げたいトピックスの項目もアンケートの自由筆記やFAX等でお寄せください。

子どものつぶやき



大きくなったらね、赤ちゃん10匹生むの！
いいでしょ。

でも、ママにはあげないよ。

いっぱいいるから、1匹ぐらい頂戴って思ってる？
だめ！

赤ちゃんはお母さんといるのがいいんだよ。



アンケート協力をお願い 次回テーマ「幼稚園・保育所」

この家庭教育広報誌「おうち」は、皆様からのアンケートの回答を中心に構成しています。子育てに関する意識の交流の場として紙面を充実させるために、ぜひ、アンケートにご協力ください。

アンケートは幼稚園・保育所にお出しいただくか、または、直接、幼児教育センターに郵送/FAXでお送りください。



一人一人を見つめて

① 特性に応じたかかわり

☆ 子どもたちは十人十色です。

園や近所で子どもの様子をみていると、さまざまな子どもがいることに気がきます。一人一人の顔が違うように、好きな遊びも体の大きさも十人十色です。

☆ 理解と配慮が必要な個性もあります。

成長の仕方はその子なりのペースがあるので、「歩き始めが遅いな。」とか「あまりお話ししないな。」と気になることがあっても、多くの子どもは運動能力や社会性などが育つにつれて心配なくなります。

でも、なかには生まれつきとても不得意なことがあったり、成長のバランスが良くない子どもがいます。このような個性のある子どもたちには、周りの大人がうまくできないことやつまづいていることへの理解を深め配慮することが必要です。

☆ 特性に応じたかかわりが大切です。

このシリーズでは、友達のできにくい子どもや落ち着きのない子どもなどに対する、特性に応じたかかわり方を紹介します。まわりの大人やお友達がその子どもと上手にかかわることで、その子どももみんなも集団生活をしながら、より良く育つことができます。一人一人の個性をより輝かせ、子どもたちの健全な心を育てるために、保護者と先生が共に考えていくときの参考にしてください。

☆ みんなで温かく見守りましょう。

子どもたちはみんなと一緒に生活しながら、保護者や先生、周りの大人の温かいまなざしに見守られて成長していきます。心配なときは一人で抱え込まず、みんなと相談しながら、一人一人の違いを受け止め、「みんな違っていいから楽しい。」というおおらかな気持ちで子育てをしましょう。

また、子どもの発達や行動に心配なことがあるとその保護者はとても不安になります。そのような時には、まわりの保護者は子どもの様々な行動と保護者の揺れ動いている気持ちを受け止め、共に支え合うことが大切です。



お知らせ

「おうち」は栃木県教育委員会の幼児教育部門である「幼児教育センター」が子育てをしている方々へ子どもについての情報を提供するために発行しています。毎回テーマを決め、事前に保護者へアンケートをとることにより、普段聞けないほかの家庭の子育てについても知ることができます。

バックナンバーは下記のホームページで読むことができます。

また、表紙の絵やカット、子どものつぶやきなど随時募集しています。直接、または園を通じて幼児教育センターまで送付ください。

とちぎテレビから

幼児の「習い事」に関するとちぎテレビ番組の御案内

「おうち」第7号に関するテレビ番組を下記のように放映しますので参考にしてください。

日時：平成17年11月6日(日) 10:10~10:30

再放送：平成17年11月7日(月) 12:05~12:25

内容：幼児の「習い事」に関する実態とその傾向、「習い事」の在り方など

家庭教育広報誌「おうち」 第7号

平成17年10月発行

発行者 栃木県教育委員会幼児教育センター

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215

FAX 028-665-7216

URL : <http://www.edu-c.pref.tochigi.jp>

e-mail : youkyou@tochigi-c.ed.jp